

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年1月8日

【四半期会計期間】 第17期第3四半期（自 平成27年9月1日 至 平成27年11月30日）

【会社名】 株式会社ファステップス

【英訳名】 Fasteps Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役 川嶋 誠

【本店の所在の場所】 東京都新宿区四谷四丁目32番4号

【電話番号】 03（5360）8998（代表）

【事務連絡者氏名】 取締役管理部長 村山 雅経

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区四谷四丁目32番4号

【電話番号】 03（5360）8998（代表）

【事務連絡者氏名】 取締役管理部長 村山 雅経

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第16期 第3四半期連結 累計期間	第17期 第3四半期連結 累計期間	第16期
会計期間	自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日	自 平成27年3月1日 至 平成27年11月30日	自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日
売上高 (千円)	5,769,421	7,086,350	8,532,940
経常利益又は経常損失() (千円)	36,469	246,631	97,880
四半期純利益又は四半期 (当期)純損失() (千円)	226,869	53,103	496,652
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	146,535	153,135	429,705
純資産額 (千円)	1,564,046	1,436,076	1,281,627
総資産額 (千円)	4,294,977	5,792,099	3,443,115
1株当たり四半期純利益 金額又は四半期(当期) 純損失金額() (円)	78.66	16.07	166.21
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	16.04	-
自己資本比率 (%)	22.2	12.8	19.9

回次	第16期 第3四半期連結 会計期間	第17期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自 平成26年9月1日 至 平成26年11月30日	自 平成27年9月1日 至 平成27年11月30日
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額() (円)	70.39	3.83

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、第16期及び第16期第3四半期連結累計期間は1株当たり四半期(当期)純損失であるため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

当社がエムアンドケイ株式会社及びPlurecil Holdings Limitedの全株式を取得したことにより、当第3四半期連結会計期間よりエムアンドケイ株式会社及びPlurecil Holdings Limitedを連結子会社に含め、普洛莱茜尔上海美容有限公司を持分法適用会社としております。

なお、当第3四半期連結累計期間において、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等) セグメント情報」「3. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスク及び前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当社は、平成27年10月15日開催の取締役会において、エムアンドケイ株式会社及びPlurecil Holdings Limitedの株式を取得し、子会社化することについて決議し、同日付けで株式取得に係る株式譲渡契約を締結いたしました。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費は想定以上に底堅い動きを見せ、設備投資に関しては、持ち直しの動きが見られるなど、景気は緩やかな回復基調に向かうことが期待されている一方で、中国経済の減速懸念高まりや原油価格の下落等、我が国の経済を下押しするリスクもあり、先が見通せない状況が続いております。

この結果、当第3四半期連結累計期間につきましては、売上高7,086百万円（前年同期比22.8%増）、営業利益231百万円（前年同期比300.2%増）となりました。経常利益は246百万円（前年同期は経常損失36百万円）となり、四半期純利益は53百万円（前年同期は四半期純損失226百万円）となりました。

セグメント別の売上高は、以下のとおりであります。（セグメントの業績については、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しております。）

なお、当第3四半期連結会計期間より、新たな報告セグメントとしてアイラッシュケア事業を新設しておりますが、当第3四半期連結累計期間の経営成績に影響を与えないため、記載しておりません。

（システムソリューション事業）

当事業におきまして、システム案件に関しては、受注数増加に向け新規開拓に邁進し、同時に既存顧客との良好関係維持にも努めてまいりました。また、スマートフォン向けアプリケーションにおいては、より専門性の高い資格取得、知識の獲得に向けたアプリの開発を始めとして、順調にタイトル数を増加させました。その結果、売上高は245百万円（前年同期比7.5%減）、売上構成比は3.5%となりました。セグメント利益（営業利益）は38百万円となり、前年同四半期と比べ76百万円（前年同期は営業損失37百万円）の増益となりました。

（メディアソリューション事業）

当事業におきましては、第2四半期に引き続き既存と新規クライアント両方の営業基盤を強化し、受注数を増やしてまいりました。その結果、売上高は6,190百万円（前年同期比25.9%増）、売上構成比は87.1%となりました。セグメント利益（営業利益）は293百万円となり、前年同四半期と比べ59百万円（前年同期比25.3%増）の増益となりました。

（コストマネジメント事業）

当事業におきましては、売上高を回復させる為、ハイクオリティ・ローコストを目標に掲げ、顧客満足に力を注いでまいりました。その結果、売上高は213百万円（前年同期比3.7%減）、売上構成比は3.0%となりました。セグメント損失（営業損失）は19百万円となり、前年同四半期と比べ7百万円損失が改善しております。

（シェイプファンデ事業）

当事業におきましては、美容・健康関連サービスの見直しを行い、既存顧客に対する信頼強化に努めてまいりました。更に、新規顧客の開拓、顧客への十分なサービス提供を進めたことにより、売上高は430百万円（前年同期比29.4%増）、売上構成比は6.1%となりました。セグメント利益（営業利益）は24百万円となり、前年同四半期と比べ71百万円の増益となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて1,262百万円増加し、4,140百万円となりました。これは、主に現金及び預金が1,161百万円増加したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ1,086百万円増加し1,651百万円となりました。これは、主にのれんが860百万円増加したことなどによります。

総資産は、前連結会計年度末に比べて2,348百万円増加し、5,792百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて1,511百万円増加し、3,006百万円となりました。これは、主に買掛金が873百万円、未払金が348百万円増加したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ683百万円増加し、1,349百万円となりました。これは、主に長期未払金が482百万円、長期借入金が190百万円増加したことなどによります。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて154百万円増加し、1,436百万円となりました。これは、少数株主持分が96百万円増加し、四半期純利益を53百万円計上したことなどによります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	11,500,000
計	11,500,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成27年11月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年1月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,343,500	3,343,500	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は100株であります。
計	3,343,500	3,343,500		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成 27年 11月 30日		3,343,500		1,071,390		87,590

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年11月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 38,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,304,900	33,049	
単元未満株式	普通株式 200		1 単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	3,343,500		
総株主の議決権		33,049	

(注) 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成27年8月31)に基づく株主名簿による記載をしておりません。

【自己株式等】

平成27年11月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ファステップス	東京都新宿区四谷4-32-4	38,400		38,400	1.15
計		38,400		38,400	1.15

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成27年9月1日から平成27年11月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成27年3月1日から平成27年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、仁智監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,687,834	2,849,313
受取手形及び売掛金	770,055	854,814
商品及び製品	102,144	218,693
仕掛品	43,641	22,752
繰延税金資産	7,645	16,385
前払費用	207,347	90,115
その他	84,829	103,846
貸倒引当金	24,896	15,182
流動資産合計	2,878,603	4,140,738
固定資産		
有形固定資産	26,302	55,543
無形固定資産		
のれん	15,800	876,210
その他	56,672	64,302
無形固定資産合計	72,472	940,513
投資その他の資産		
投資有価証券	106,324	152,950
長期貸付金	302,374	351,303
破産更生債権等	166,258	166,258
その他	178,605	286,517
貸倒引当金	287,826	301,726
投資その他の資産合計	465,737	655,303
固定資産合計	564,512	1,651,360
資産合計	3,443,115	5,792,099
負債の部		
流動負債		
買掛金	437,074	1,310,383
未払金	51,245	399,413
短期借入金	500,000	804,000
1年内返済予定の長期借入金	176,700	177,084
未払法人税等	36,052	105,112
その他	293,986	210,596
流動負債合計	1,495,058	3,006,590
固定負債		
長期未払金	19,593	502,499
長期借入金	226,539	417,052
役員退職慰労引当金	325,968	336,237
退職給付に係る負債	16,706	17,375
その他	77,622	76,269
固定負債合計	666,430	1,349,433
負債合計	2,161,488	4,356,023

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,071,390	1,071,390
資本剰余金	663,414	663,414
利益剰余金	1,003,873	950,769
自己株式	58,994	58,994
株主資本合計	671,937	725,040
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,963	16,048
その他の包括利益累計額合計	12,963	16,048
新株予約権	4,991	6,305
少数株主持分	591,734	688,682
純資産合計	1,281,627	1,436,076
負債純資産合計	3,443,115	5,792,099

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年11月30日)
売上高	5,769,421	7,086,350
売上原価	4,832,873	6,015,326
売上総利益	936,547	1,071,024
販売費及び一般管理費	878,625	839,215
営業利益	57,922	231,809
営業外収益		
受取利息	7,204	4,562
受取配当金	16,316	2,110
投資有価証券売却益	10,250	-
不動産賃貸料	11,905	24,870
貸倒引当金戻入額	5,831	-
その他	4,787	4,658
営業外収益合計	56,294	36,201
営業外費用		
支払利息	7,061	7,066
賃貸費用	5,718	14,043
貸倒引当金繰入額	134,000	-
その他	3,907	268
営業外費用合計	150,686	21,379
経常利益又は経常損失()	36,469	246,631
特別利益		
負ののれん発生益	-	7,386
特別利益合計	-	7,386
特別損失		
固定資産売却損	462	-
減損損失	23,566	-
特別損失合計	24,029	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	60,498	254,017
法人税、住民税及び事業税	101,880	115,775
法人税等調整額	13,404	8,527
法人税等合計	88,475	107,248
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	148,974	146,769
少数株主利益	77,894	93,666
四半期純利益又は四半期純損失()	226,869	53,103

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	148,974	146,769
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,439	6,365
その他の包括利益合計	2,439	6,365
四半期包括利益	146,535	153,135
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	223,395	56,187
少数株主に係る四半期包括利益	76,860	96,947

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年3月1日 至 平成27年11月30日)	
連結の範囲の重要な変更	
<p>当第3四半期連結累計期間において、当社が平成27年11月1日付でエムアンドケイ株式会社及びPlurecil Holdings Limitedの全株式を取得したことに伴い、当社はエムアンドケイ株式会社及びPlurecil Holdings Limitedを連結の範囲に含め、普洛莱茜尔上海美容有限公司を持分法適用会社としております。なお、エムアンドケイ株式会社及びPlurecil Holdings Limited並びに普洛莱茜尔上海美容有限公司は平成27年11月30日をみなし取得日としております。</p> <p>当該連結の範囲の変更は、当第3四半期連結累計期間の属する連結会計年度の連結財務諸表に重要な影響を与えます。影響の概要については、注記事項「セグメント情報等」及び「企業結合等関係」に記載しております。</p>	

(四半期連結貸借対照表関係)

当座借越契約等

当座借越契約に係る借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年11月30日)
当座借越極度額	750,000千円	800,000千円
借入実行残高	500,000千円	800,000千円
差引額	250,000千円	-千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年3月1日 至 平成27年11月30日)
減価償却費	31,614千円	6,118千円
のれんの償却額	19,538千円	7,500千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成26年3月1日至平成26年11月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の著しい変動に関する事項

当社は、平成26年11月7日付で、株式会社セントラルプロモーション北海道から第三者割当増資の払込を受けました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金が87,590千円、資本準備金が87,590千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が1,071,390千円、資本剰余金が663,414千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自平成27年3月1日至平成27年11月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成26年3月1日至平成26年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	システム ソリューション 事業	メディアソ リューション 事業	コストマネ ジメント 事業	シェイプ ファンデ 事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	265,277	4,918,039	222,111	332,964	5,738,393	31,027	5,769,421	-	5,769,421
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	265,277	4,918,039	222,111	332,964	5,738,393	31,027	5,769,421	-	5,769,421
セグメント利益 又は損失()	37,725	233,976	26,675	46,502	123,073	1,756	121,316	63,394	57,922

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲食事業を含んでおります。
2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額 63,394千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「シェイプファンデ事業」セグメントにおきまして、店舗閉鎖の決定により23,566千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

「シェイプファンデ事業」セグメントにおきまして、株式会社NSFが連結子会社となったことに伴いのれんの金額に重要な変動が生じております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は当第3四半期連結累計期間においては、67,415千円であります。

当第3四半期連結累計期間（自平成27年3月1日至平成27年11月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	システム ソリューション 事業	メディアソ リューション 事業	コストマ ネジメン ト 事業	シェイプ ファンデ 事業	アイラッ ッシュケア 事業	計				
売上高										
外部顧客への売上高	227,240	6,190,640	211,033	430,661	-	7,059,576	26,774	7,086,350	-	7,086,350
セグメント間の内部 売上高又は振替高	18,062	-	2,896	219	-	21,178	-	21,178	21,178	-
計	245,302	6,190,640	213,930	430,881	-	7,080,755	26,774	7,107,529	21,178	7,086,350
セグメント利益又は 損失()	38,471	293,253	19,227	24,972	-	337,469	5,692	331,777	99,967	231,809

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲食事業を含んでおります。
2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額 99,967千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

「アイラッシュケア事業」セグメントにおきまして、エムアンドケイ株式会社及びPlurecil Holdings Limitedが連結子会社となったことに伴い資産の金額に重要な変動が生じております。

なお、当該事象により当第3四半期連結累計期間においては、資産の金額が798,152千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「アイラッシュケア事業」セグメントにおきまして、エムアンドケイ株式会社及びPlurecil Holdings Limitedが連結子会社となったことに伴いのれんの金額に重要な変動が生じております。

なお、当該事象により当第3四半期連結累計期間においては、のれんが854,695千円増加し、負ののれん発生益7,386千円を計上しております。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第3四半期連結会計期間より、エムアンドケイ株式会社及びPlurecil Holdings Limitedが連結子会社となり、普洛莱茜尔上海美容有限公司が持分法適用会社となったことにより「アイラッシュケア事業」を新設しております。当社は、従来「システムソリューション事業」、「メディアソリューション事業」、「コストマネジメント事業」、「シェイプファンデ事業」の4つの報告セグメントとしておりましたが、新たに「アイラッシュケア事業」を追加しております。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

当社グループはデリバティブ取引を行っていないため、該当事項はありません。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

1. エムアンドケイ株式会社

(1) 企業結合の概要

被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称 エムアンドケイ株式会社

事業の内容 化粧品、美容器具の販売

企業結合を行った主な理由

同社の株式取得によりシェイプファンデ事業の強化を図るため。

企業結合日

平成27年11月1日

企業結合の法的形式

同社の株式取得

結合後企業の名称

エムアンドケイ株式会社

取得した議決権比率

株式取得前に所有していた議決権比率：0.0%

株式取得後の議決権比率：100.0%

取得企業を決定するに至った主な根拠

当社がエムアンドケイ株式会社の株式を取得したことにより、議決権比率を100.0%所有したためであります。

(2) 四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

平成27年11月30日をみなし取得日としているため、該当事項はございません。

(3) 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価 現金 1,500,000千円

取得原価 1,500,000千円

(4) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

発生したのれん金額

854,695千円

発生原因

エムアンドケイ株式会社における今後の事業展開によって期待される超過収益力であります。

償却の方法及び償却期間

10年間にわたる均等償却

2. Plurecil Holdings Limited

(1) 企業結合の概要

被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称 Plurecil Holdings Limited

事業の内容 化粧品、美容器具の販売

企業結合を行った主な理由

同社の株式取得によりシェイプファンデ事業の強化を図るため。

企業結合日

平成27年11月1日

企業結合の法的形式

同社の株式取得

結合後企業の名称

Plurecil Holdings Limited

取得した議決権比率

株式取得前に所有していた議決権比率：0.0%

株式取得後の議決権比率：100.0%

取得企業を決定するに至った主な根拠

当社がPlurecil Holdings Limitedの株式を取得したことにより、議決権比率を100.0%所有したためであります。

(2) 四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

平成27年11月30日をみなし取得日としているため、該当事項はございません。

(3) 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価	現金	1,000千円
取得原価		1,000千円

(4) 発生した負ののれん発生益の金額及び発生原因

発生した負ののれんの金額

7,386千円

発生原因

取得時の時価純資産価額が取得原価を上回ったためであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年11月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額 ()	78円66銭	16円07銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額() (千円)	226,869	53,103
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額 ()(千円)	226,869	53,103
普通株式の期中平均株式数(株)	2,884,332	3,305,100
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	-	16円04銭
(算定上の基礎)		
普通株式増加数(株)	-	4,776
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式 で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの 概要	-	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、前第3四半期連結累計期間は1株当たり四半期純損失金額であるため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年 1月 8日

株式会社ファステップス
取締役会 御中

仁 智 監 査 法 人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 山 口 高 志 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 來 嶋 真 也 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ファステップスの平成27年3月1日から平成28年2月29日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成27年9月1日から平成27年11月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成27年3月1日から平成27年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ファステップス及び連結子会社の平成27年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。